

広報さくら

◆◆ 第121号 ◆◆ 令和8年3月吉日
発行:日本大学明誠高等学校後援会



主な内容

- | | |
|--------------------------|---------------------------|
| ○ごあいさつ……………校長、会長……………2～3 | ○強歩大会……………10 |
| ○後援会主催講演会、牛倉神社祭典パトロール…4 | ○強歩大会活動報告……………11 |
| ○誠祭……………5～7 | ○謝恩会を振り返って……………12 |
| ○誠祭活動報告……………8 | ○後援会活動の様子……………13 |
| ○アカデミア明誠……………9 | ○令和7年度後援会活動報告、編集後記……………14 |



令和7年度もあとわずかとなりました。3年生の保護者におかれましては、長いようで短かったご子女の3年間ではなかったでしょうか。本校の教育活動に多大なるご支援とご協力を賜りましたこと、誠にありがとうございました。そして次のステップへと羽ばたいてゆくご子女に、前途洋々たることをご祈念申し上げると共に心より祝福いたします。

卒業式では私の式辞の中で、パナソニックを創始した松下幸之助氏の言葉を紹介しました。それは、「青春とは心の若さである。信念と希望にあふれ、勇氣にみちて日に新たな活動続けるかぎり、青春は

永遠にその人のものである。」というものです。この言葉は、アメリカの実業家であり詩人でもあるサミュエル・ウルマンの「青春の詩」から引用したものとされています。その詩の概略は、「青春とは人生のある時期ではなく心の持ち方をいう。たくましい意思、ゆたかな想像力、もえる情熱をさす。青春とは臆病さを退ける勇氣、やすきにつく気持ちを振り捨てる冒険心を意味する。ときには、20歳の青年よりも60歳の人に青春がある。年を重ねただけで人は老いない。理想を失うとき、はじめて人は老いる。」というものです。つまり松下氏の言葉も、ウルマンの詩も、理想や希望に溢れ情熱を持って挑戦を続ける限り、年齢とは関係なくそれは常に「青春」である、ということなのです。皆様は「青春」してますか？大それた理想ではなく日々の他愛のないちょっとした夢を持ち続け、年齢を重ねていっても「青春」していきたいものですね。

私はこの3月で定年退職を迎えます。後援会広報誌にご挨拶を掲載するのもこれが最後となります。ご子女の皆様や保護者の皆様には、言葉では言い尽くすことのできない、濃い時間を過ごさせていただきました。この3年間の思い出を生涯の宝物として持ち続け、「青春」しながら残りの人生を歩んでゆく所存です。本当にありがとうございました。



寒さの中にも、ふとした瞬間に春の陽気を感じる季節となりました。後援会会員の皆様におかれましては、日頃より本会の活動に対し、多大なるご理解と温かいご支援をいただき、心より感謝申し上げます。

昨年7月に「広報さくら」第120号で就任のご挨拶をさせていただいてから、早いもので半年以上が経過いたしました。半年あまりの活動の中で、いきいきと活動する生徒たちの表情や、後援会活動に寄せられる皆様の多大なるお力添えを間近に拝見し、私自身もたくさんの元気をいただいた半年間でした。

特に、昨年11月に開催された「誠祭」では、2学年の役員・委員の皆様が中心となり、お茶処とバザーを運営いたしました。事前の準備から当日の運営まで、細やかなお気遣いの中にも笑顔を絶やさず、楽しみながら活動してくださったことが、2日間の大盛況に繋がったと感じております。また、お品物の提供を通してバザーを支えてくださった多くの皆様、その温かなご厚意にこの場を借りて心より御礼申し上げます。

さて、3月は卒業の季節でもあります。3年生の保護者の皆様におかれましては、お子様のご卒業という大きな節目を迎えられ、感慨もひとしおのことと存じます。卒業式や謝恩会を経て、新しい世界へと羽ばたくお子様方の未来が、希望に満ちたものとなり



ますよう心よりお祈り申し上げます。

私の任期は5月の総会までとなりますが、残りの期間も、生徒たちが充実した学校生活を送れるよう、精一杯努めてまいる所存です。今号より、この「広報さくら」もデジタル配信という新しい形に生まれ変わりました。より手軽にご覧いただけるようになった「広報さくら」を通じて、皆様に後援会を一層身近に感じていただければ幸いです。

今後とも、後援会活動への変わらぬご支援とご協力をお願い申し上げます。



令和7年9月6日(土)、本校多目的ホールにて、保護者対象の後援会主催講演会が開催されました。

今年度は、日本大学文理学部次長の杉森知也先生を講師にお迎えし、「高校生の成長に保護者はどう関わるができるか」というテーマでご講演をいただきました。

講演では、心理学的な視点を交えながら、思春期の子どもたちに対する理解と関わり方について、多くの示唆をいただきました。近年では「反抗期」が目立たなくなっている傾向についても触れられました。

また生徒の心の成長を支える上で不可欠な要素として「レジリエンス(折れない心)」が紹介されました。失敗や挫折を経験しながらも前向きに立ち直る力を育むためには、家庭における安定した居場所と信頼できる人間関係や肯定的な声かけが大切であるとお話しされました。さらに「ピグマリオン効果(期待が行動に影響を与える心理現象)」の観点からは、保護者が子どもに抱く期待のあり方が成長に大きな影響を与えること、そしてそれは過度な期待ではなく現実的で温かいまなざしであることが、子どもの力を引き出す鍵になると語られました。

今回の講演は、保護者としての関わり方を見つめ直す貴重な機会となりました。日々、肯定的な声かけを心がけ、子どもの心に寄り添いながら、その成長を支えていけるよう努めていきたいと思っています。

ご講演いただきました杉森先生、お忙しい中ご来校いただきありがとうございました。また当日は多くの保護者の皆様にご参加いただき、講演会を開催できましたことに心より感謝申し上げます。



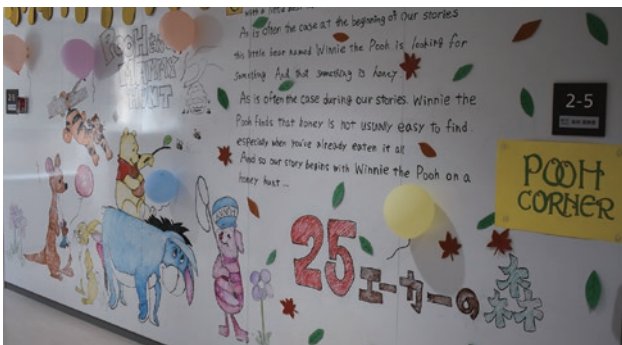
牛倉神社例大祭 祭典パトロール

第3学年副会長 関戸 謹

牛倉神社は、明誠高校と甲州街道を挟み反対側に位置し、創建年次は不詳ですが、奈良時代の「和名抄」に記される歴史ある神社です。ここで行われる例大祭は、「郡内三大祭り」の一つとして知られており、3日間に渡り大変賑やかなお祭りです。この2日目、最高潮の時、訪れる明誠高校生の安全を見守る為、明誠高校後援会有志により、令和7年9月7日(日)に神社境内及び、その周辺を巡回パトロールしました。当日は晴天にも恵まれ、大変な人出でしたが、無事トラブルもなく終了することができました。











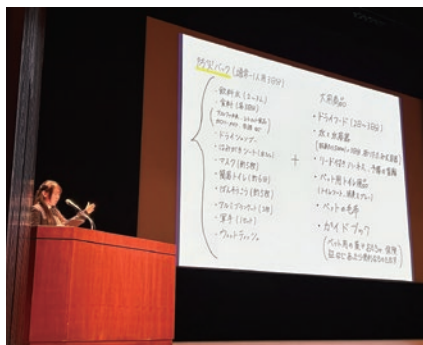
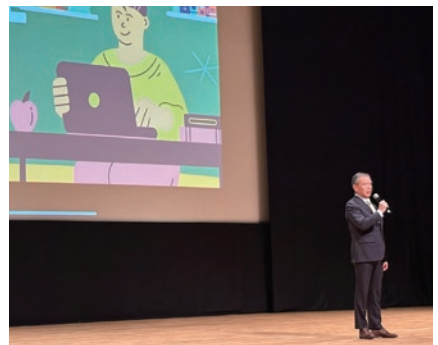
後援会では、昨年11月28日・29日開催の誠祭においてバザーとお茶処の運営を行いました。両日とも晴天に恵まれ、多くの方々に足をお運びいただきました。

初日の朝、バザー開店の準備を進めている際、OBの方の訪問を受け「これは今朝採れたての“かぼちゃ”だからバザーで販売して」と数本の細長いかぼちゃ（すくなかぼちゃ?）をご寄付いただきました。野菜の差入れをいただき、つくづく地域に密着した文化祭だと感じることができました。バザーは大盛況であり、開店前からバザー品の

チェックをされる方々が多数いらっしゃいました。生徒、ご家族に加え、地元の方々にもお越しいただき、両手に溢れるほどご購入いただいた方もおりました。バザー品の提供にご協力いただいた皆様、この場をお借りして御礼申し上げます。また、お茶処もくつろぎの場として大好評であり、多くの方々に誠祭見学のひと休みにご利用いただきました。少し寒かったこともあり、ホットドリンクが多く売れたため、お湯が足りなくなることもありました（汗）なお、バザーとお茶処の売上は、強歩大会など生徒活動の支援に活用させていただきました。最後に、事前準備や当日運営にご尽力いただいた保護者の皆様、地域の皆様、後援会OBの皆様、そして教職員の皆様に心より感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



アカデミア明誠



令和7年度強歩大会



2月21日(土)、伝統ある強歩大会が開催されました。早朝は厳しい冷え込みであったにも関わらず、スタート時にはだいぶ温かな陽気となり、絶好の強歩日和となりました。

今年も後援会では、同大会の支援として、当日恒例の豚汁作りと生徒たちの安全を確保するためのコース誘導を行いました。

当初は大会支援活動の流れもイメージできずに始まりましたが、上学年の皆様から明誠愛たっぷりのアドバイスを頂き、一步一步着実に準備を進めていくことができました。

10月下旬の学年会議では、「様々な思いでゴール目指して強歩する子供たちを最高の笑顔で迎えられるよう、私たち自身も楽しみながら、何があっても助け合って大会を支援しよう!」と全体で心を1つにし、「楽しむ」、「何があっても助け合う」を共通のコンセプトにグループごとの準備が本格化しました。

年明けには、大会を運営する先生方や共にコース誘導をする野球部とサッカー部の保護者とも意見交換する中で、学校と保護者と後援会が生徒たちにとって充実した最高の1日となつてほしいという心で結びつき1つのチームとなることで、一体感も強まりました。

また、学年各グループの団結力がとても強く、当初から活気に満ちた雰囲気があり、納得いく

まで何度も話し合いを重ねるうちに信頼や絆も更に深まっていったように思います。

そして、いよいよ大会当日!! 当日の支援活動は本当に本当にあっという間でした。

それでも、大会が無事完了できたこと、そして何より生徒たちの強歩する姿やゴール後の達成感や安堵に満ちた笑顔で仲間と豚汁を食べる姿に、この日のために準備してきた甲斐があったと胸が熱くなりました。

最後に、大会支援にご協力頂きました役員、委員、部活の保護者の皆様、そして運営にご尽力を頂きました先生方に厚く御礼を申し上げます。今後も後援会活動にご理解とご協力を頂けますよう宜しくお願い申し上げます。



春の足音が近づいて来る今日このごろ、去る3月7日に京王プラザホテル八王子にて謝恩会が開催されました。

例年、卒業式の後の謝恩会として定着しておりましたが、本年は卒業式から1週間あけた開催となり、募集当初はご参加いただける人が少なく、大変心配しました。しかしながら、謝恩会実行委員さんを中心に3学年役員さん、委員さんによるお声がけをいただき、例年通り盛大に実施することができました。

謝恩会の詳細を詰める最中に、上野原市内では山梨県下、戦後最大の山火事に見舞われ、実行委員長であり、また市の消防団員である私は、山火事の対処に忙殺されました。この間、謝恩会の実務は謝恩会実行委員の方々に丸投げとなってしまう、委員さんには大変ご迷惑をお掛けしました。この場を借りてお詫び申し上げます。

謝恩会の内容としましては、生徒から先生に

向けたビデオメッセージ上映、お世話になった先生への花束贈呈、先生からの一言、今まで聞くことがなかった学校での生徒たちの様子、生徒への思いをうかがうことができました。さらに部活動でお世話になった先生方にもお話を聞くことができ、涙あり、笑いありの思い出に残る素晴らしいひと時を過ごしました。

末筆ではございますが、今回謝恩会実施に当たり、大変お世話になりました水谷後援会長、吉丸総務部会長を中心に、謝恩会実行委員さん、後援会役員さん、委員さん、お手伝い頂いた1、2年生の役員さん、謝恩会にご出席いただいた皆様に感謝申し上げます。

有難うございました。



後援会活動の様子



令和7年度 後援会活動報告

令和7年	
5月	後援会定期総会・第1回役員会・新旧歓送迎会 球技大会
6月	学部訪問日本大学芸術学部 体育祭 学年別委員会
7月	日本大学明誠高等学校後援会奨学生授与式 「広報誌さくら」120号発行
9月	後援会主催講演会 牛倉神社祭典パトロール
10月	学年別委員会
11月	学年別委員会 誠祭バザー・お茶処準備・実施
令和8年	
1月	賀詞交換会 学年別委員会
2月	学年別委員会 アカデミア明誠 強歩大会支援準備・実施
3月	卒業式 卒業謝恩会 「広報誌さくら」121号発行
4月	入学式 第2回役員会(予定)
5月	第3回役員会(予定) 定期総会・新旧歓送迎会(予定)

◆編集後記◆

今年度の最後の「広報さくら」をお届けいたします。

発行にあたり、先生方をはじめ、ご協力いただいた多くの方々に心より感謝申し上げます。

日ごろ学校に足を運ぶ機会が限られている保護者の皆様へ、少しでも学校の雰囲気や生徒たちの生き生きとした様子をお伝えできるよう、部員一同努めてまいりました。一つでも心に留まる記事がございましたら幸いです。

一年間、本当にありがとうございました。

